

平成28年度 市野与進こども園事業報告書

平成28年度 4月の在園人数140名でスタートし、3月には151名で終了いたしました。

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
平成28年 4月	13	25	23	22	33	24	140名
平成29年 3月	24	25	22	22	33	24	151名

一時預かり保育事業も最終延べ人数は1031名でした。

事業も無事に終わり、下記の事業を課題として取り組んできました。

- ① 保育園から認定こども園の移行に対して、環境の変化、特に収入面おいていろいろな憶測が飛び交いどう変化するか不安がありました。
- ② 親と子どもがしっかりと向き合い、「親子の愛着・信頼関係」を築くこと伝えるために、年4回「親子ふれ愛の日」を設けました。参加の条件として母親だけでなく父親も参加してほしいという気持ちもあり、子ども一人に対して保護者一人といった1対1の参加を呼び掛けました。その結果 兄弟のいる家庭から参加ができないといった声が上がりました。
- ③ 職員の資質ですが、中堅層の職員が産前産後、育休に入っていることや自己研鑽の部分で、資質向上につながっていないのが現状です。自己チェックを基に今後の課題を探っていきたいと思います。(自己チェック結果表参照)

- ④ 母親にベビーマッサージを通して「子育てにとって一番大切なこと」を伝え、月2回の一歳未満児のベビーマッサージとマッサージ終了後の1歳から2歳にかけての「ふれ愛遊び」を月に1回開催し、参加者も増えてきました。

また 離乳食教室は大変好評で、(株)明治の離乳食専門の管理栄養士の講話と園の栄養士による離乳食の実食を兼ねながら、手づくりの大切さを伝えました。

助産師の出産・子育て・授乳などの相談窓口を開催しましたが、参加者が少なくPRのやり方を変えていくことを考えております。

今後の課題として親子ひろば専用の部屋がないことから、増改築終了後平成30年度には備品整備を行っていきたいと考えております。

事業計画報告

法人の基本方針	概 要	内 容	報 告
<p>① 保育指針、認定こども園教育・保育要領、放課後児童クラブ運営指針(以下保育指針等)に沿った保育の実践</p>	<p>・子ども・子育て支援法を十分に理解し、支援法に沿った担当業務の在り方を把握したうえで、実践し、振り返りを行う。(目標による管理)</p>	<p>★保育教諭主導の「させる保育」から子ども自ら「やってみよう保育」へ</p> <p>★教育・保育の遊びを通して (生きる力の基礎づくり)</p> <p>① 人としての育ち、園での教育の在り方をしっかりと認識しながら「生きる力」の基礎を育てる</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <ul style="list-style-type: none"> ・人との関わり…… ・自分の思いを言葉にする ・集団生活や遊びのルールを守る <div style="font-size: 2em; margin: 0 10px;">}</div> <p>を育てていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手を思う気持ちを育てる ・基本的な生活習慣の確立 <p>② 情緒の安定や大人との信頼関係を図りながら、日々心安らかに生活を送る。</p> </div>	<p>★(生きる力の基礎づくり)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員全員が意識し、保育に取り入れていかなくてはいけない事項であるが、まだまだ内容的に充実できていない。 ・子どもの気持ちを受け止めるといった職員の心構えは伝わってくるが発揮できていない。

	<p>・子どもの安全を守るためにリスクマネジャーを養成し、リスクマネジャーから各職員への教育を徹底する。</p> <p>・子どもの権利を守ること、虐待の防止といった子どもの人権についての関心を深める。</p>	<p>・保育教諭は一人ひとりの関わりを大切にしながら、保育教諭の思いと子どもの思いを絡み合わせ、「明日につながる振り返り」を行う。</p> <p>★情緒の安定と5感を大切にしながら「挑戦する気持ち」、「意欲」、「体験する楽しさ」を育てる。 ・見る→意欲(やってみよう)→真似る→学ぶ</p> <p>4歳5歳の保育テーマ「いろいろなことを体験しながら、何にでも挑戦する子を育てる」</p> <p>★人としての基本的マナーを身につける (あいさつ・履物を揃える・自分の持ち物の整理整頓など)</p> <p>★「食育」 日本古来食文化の伝承 季節の食べ物を知り、畑で採れた食材で料理する楽しさを知る。 地域人たちとのつながりを大切にしながら、行事食に興味を持つ。</p> <p>★リスクマネジャーを中心とした組織づくり、職員の意識向上</p> <p>・虐待児の早期発見と職員の虐待研修に参加</p>	<p>・保育教諭は年齢の発達過程をしっかり頭に刻み、教育・保育を内容まで踏み切れていない。</p> <p>・天候の不順に伴い野菜類はうまく栽培ができなかった。ただサツマイモのみ量的には多くないがうまくできた。</p> <p>・リスクを予想することはいろいろな視覚資料で理解でき、話し合いもするが、実際の場面では、気づかなかつたり、見えなかつたり、リスクをリスクと感じないことが多く、この部分の検証をどうするのか考える必要がある</p>
<p>② 国、市の方針、環境変化に応じた園の経営</p>	<p>国の「子ども・子育て新システム」、市の保育政策等への適合をはかる。</p> <p>・浜松市幼児教育・保育課担当行政をはじめ関係機関との連携を深める。</p> <p>・2016年度認定子ども園に移行する。移行後の対応、特に事務的な手続きや保護者との対応を確実に進める。</p>	<p>★こども園に係る研修会に積極的に参加。</p> <p>民間園長会を通して認定こども園の情報提供を受ける。</p> <p>① 免許更新に向けての計画実施</p> <p>② 保護者説明会の実施</p> <p>★幼保連携型「認定こども園」移行にあたり「教育・保育要領」と「保育指針」の勉強会開催。</p>	<p>・今夏4人(正規1人・非常勤3人)の免許更新をする。</p> <p>・保護者対応はスムーズに運ぶことができたが、こども園＝幼稚園部門と思っている地域の保護者の問い合わせが多く、幼稚園部門の計画をしっかりと立案することを感じた。</p>
<p>③ 保護者への積極的な子育て支援</p>	<p>・保護者への支援、保護者との連携を強化する。</p>	<p>★親育ちを考える。(子どもが人として育つために)</p> <p>・こども園の持っている専門性を利用した子育て支援</p> <p>・子育てに大切なこと・職員による親子ふれあひ遊びの提唱</p> <p>保護者講演会……「喫煙が及ぼす子どもへの影響」</p>	<p>・親の利便性ばかりが中心になる支援ではなく、子育てをしていく中で子どもの姿を通して何が大切かを伝える必要を感じ、子どもの姿から見えてくる</p> <p>・集中力がない</p> <p>・話が聞けない</p> <p>・落ち着きがない</p>

	<p>・地域への子育て支援メニューを充実する</p> <p>保護者も教育・保育に参加し体験することにより、こども園への理解と教育・保育内容の理解を深める。</p> <p>・</p>	<p>★地域の子ども・子育て支援の充実 親子ひろば・タッキークラブ</p> <p>① 待機児を持つ保護者及び将来保育園に預けたい保護者に情報提供保護者の悩みの共有・支援</p> <p>② 親子ひろばの支援メニュー充実に向けてプログラムを作成</p> <p>・親子ひろばのプログラム</p> <p>◇ 手作り離乳食とおやつ</p> <p>◇ 妊婦懇談会(マタニティーカフェ)・・・妊産婦と助産師及び職員懇談会</p> <p>◇ 子育て中の親と職員の交流会(マザースクエア)</p> <p>◇ 親子触れあい遊びクラブ 1歳～2歳</p> <p>◇ ベビーマッサージ・・・子育てに大切なこと。6回コース・1回コース</p> <p>◇ 保育参加・・・子どもとの関わり方や遊びの様子を見て、家庭での子育ての参考にしてもらう</p> <p>★地域ボランティアの活用とこども園 教育・保育の情報発信をする</p> <p>子育てボランティアの活用 ・親子広場での育児相談</p> <p>★教育・保育内容が見えるこども園</p> <p>・「伝えよう教育・保育内容」</p> <p>5W1Hを使って、教育・保育のプロセスを伝える。</p> <p>振りかえりシートを書くことで、園での子どもの姿を伝える。</p> <p>・保育参加を通して、子どもの園での様子や保育教諭のかかわり方など知ってもらう。</p> <p>・保育参加に父親も積極的に参加を促す</p> <p>・3歳以上児の保育参加の奨励</p>	<p>・暴力的ですぐに手がでる等、家庭での親子のかかわり方がいかに大切かを伝えていくことにした。</p> <p>・待機児童が増えている関係かタッキークラブに参加する人が急激に増え、新たな課題も見えてきた。</p> <p>・親子ふれ愛遊びを月に一度実施しているが、会を重ねるごとに参加者が増えきた。</p> <p>・地域貢献度として、親子ひろばのプログラム充実を行い、新たに「親子ふれ愛遊び」の実施をした。</p> <p>・手作り離乳食とおやつは地域の子育ての母親には大好評で参加者も多く、継続をしていく。</p> <p>・6回コースは少し無理かあったことで、月に二回月齢に合わせたマッサージに変更する。</p> <p>今後の課題</p> <p>・親子ひろばの専用保育室がないため、増改築後H30年度には備品設備を充実させたい。</p>
<p>④ 保育環境の整備</p>	<p>財源の確保を含めて計画的に環境の整備の強化を進める。</p> <p>・子どもたちの安全と衛生的な環境を確保する。</p> <p>・修繕や備品の購入は年次を追って計画的に進める。</p>	<p>① 1歳児の担当人数を6:1から5:1の対応する</p> <p>★職員の危機管理研修</p> <p>① リスクマネジャーの育成と組織づくり</p> <p>②自己チェック・・・ヒヤリハット研修</p> <p>保育士の書類記入の軽減とヒヤリハットの効率のアップ</p> <p>② 点検・指摘に関して速やかに保守・修繕の実施</p> <p>★こども園公定価格による収入・支出のバランスを考えながら、健全なこども園運営を行う。</p>	<p>・育児休業取得の保育教諭が子どもの入園不可能となり、仕事復帰ができなくなり、5対1が後半6対1に変更した。</p> <p>・自己チェックの結果は、HP記載</p> <p>・主幹保育教諭と事故防止担当二名を日保協の安全研修に参加し、</p>

		<p>計画的に事前に調査、予算どりを実施</p> <p>★責任者は職員に運営状況を丁寧に説明する</p>	<p>園での事故防止・リスクにどう取り組むかを検証するが結果は出し切れていない。</p>
<p>⑤ 働きやすい環境づくり、待遇改善</p>	<p>・早期採用計画を明確にする。</p> <p>・法人全体、職員全体で、積極的な新規採用活動を実施する。</p> <p>・職員の給与改定による処遇改善を進める。</p>	<p>★他園との情報収集を行いながら、自園の採用計画を行う</p> <p>① 5月に行う県保連・浜松民間園長会主催の合同就職説明会の有効利用を行う</p> <p>② 新規採用募集要項を見直しながら、計画を立案する</p> <p>★面談を通し、園長、主幹に意見を言いやす環境をつくる</p> <p>★定員増・公定価格による収入・支出のバランスを考えながら、健全なこども園運営を行う。</p> <p>★有給休暇を取りやすい人事配置を行う。</p> <p>★最低基準に合った人事配置</p> <p>★「選ばれる保育園」をめざした人材育成をする</p> <p>① 正規職員・パート職員が自己発揮できる職場作り</p> <p>② 園内研修の充実</p>	<p>・他園も早めの採用を考え動いているが採用に至っていない</p> <p>・合同就職説明会に参加、しかし新規採用には結びつかず、実習生2名が応募、採用とした。民間園長でも情報交換をするが、どの園も応募がなく、新設園に流れ、既存園に就職しない。また 保育者不足を補うために各園が優遇措置をとっている。ことが判明する。</p>
<p>⑥ 計画的な研修</p>	<p>・自ら学ぶ姿勢を支援する。</p> <p>・倫理性、組織性、専門性をもつ職員の育成を行う。</p> <p>・パート職員も含めたOJTの強化、プリセプター方式による新人研修等</p> <p>・新たなキャリアパス研修計画の策定</p>	<p>★教育・保育の質の向上を目指して</p> <p>① 正規・パートとの区別なく全員が研修に参加ができるよう配慮を行う</p> <p>② 非常勤・パートの意識改革が必要になってくるため、少しずつ抵抗がないように伝えていく。</p> <p>③ 講師を招いてふれあ遊びの実技研修を実施</p> <p>④ 職歴、経験年数に応じた職員研修</p> <p>① 県外研修参加</p> <p>② 新規採用研修</p> <p>新規採用者と2年以上中堅未満の保育教諭実務研修</p> <p>★園内研修</p> <p>エピソード研修を根底に「子どもの今を大切に」を引き続きテーマとする。</p> <p>① 子どもと保育教諭の遊びこみ</p> <p>・遊びこむことによる子どもの変化を記録にのこす。</p> <p>OJT・プリセクター方式による職員育成新規採用者に対する</p> <p>★キャリアパスによる人材育成</p> <p>① 中堅未満職員の初任者研修</p> <p>子どもが子どもらしく生きるために「子どもの権利条約とプライバシー」について研修</p>	<p>・教育・保育に必要な実践研修を行い、ふれあ遊びの内容の充実をさせた。</p> <p>・正規、非常勤も立場的には異なるが、子どもを育てる使命には変わりないと考え、非常勤職員に研修をうけることを説明し、研修を受けることにした。</p> <p>・法人主催の実務研修に1・2年目職員が参加</p> <p>・児童相談所の職員による虐待について研修を受け、虐待の悲惨さを知ることができたのではないかと思う。</p> <p>・9月に山縣文治先生による「子どもの権利条約とプライバシー」について研修を実施</p>

<p>⑦ 経営の把握と無駄の排除</p>	<p>・経営状況を適切に把握し中長期計画を策定する。(の予算根拠の明確化とその実行管理)</p> <p>・管理部門は常に現在の経営状況を把握し、随時職員にも伝える。</p> <p>・適正な経営を確保するために、無駄を排除する。</p> <p>・両園の建物、設備の再生産性のための費用の算定とその積立計画を検討する。</p>	<p>★中長期計画の中に人員と設備備品計画の策定をする。</p> <p>★責任者は運営状況を丁寧に説明する</p> <p>★社会状況・経営状況を1人ひとり自分のことと捉え、職員全員ができることから始める。節電・漏水・物を大切にする</p> <p>① ゴミの省力化</p> <p>② 保育の中で園児たちに物の大切さ、資源(水)の大切さを知らせる</p> <p>★責任者は運営状況と照らし合わせながら、施設整備の計画表を作成</p> <p>② 一階保育室園児用ロッカーの取り換え・(中長期に記載する)</p>	<p>・子どもの握力指先の力不足もあり、蛇口の締めがしっかりできず、常に水が出ている状態、蛇口取り換え、節水を実施、上下水道料金が大幅に減となる</p> <p>・増築に伴い延期を行う</p>
<p>⑧ タイムリーな情報発信</p>	<p>・ホームページで随時新しい情報を提供し、保護者や地域社会、保育教諭就職希望者に情報を開示・発信し、交流する。</p> <p>・日頃の実践発表を保護者に伝える機会を持ち、保護者とともに教育・保育を進める。(保護者向けの発表会やホームページ上にブログによる情報発信等。)</p> <p>・職員の末端に至るまで、必要な情報はタイムリーに正しく流す(月次決算、重要決定事項)</p>	<p>★責任者は運営状況をHPや閲覧しやすいように提示する。</p> <p>★地域・利用者・就職希望者に向けた教育・保育内容が見えることも園ホームページを通して、子どもの笑顔、行動など様子がしっかりと伝わるように伝え方を工夫する。</p> <p>★教育・保育のプロセスを保護者に伝える(園の考えや保育教諭の思い)</p> <p>① 教育・保育の様子をよりイメージしやすく伝える ・エピソード記録に基づき、ボード・ホームページ・クラス便り・行事・教育・保育の取り組み発表・園内掲示利用して伝える</p> <p>② 平成27年度に引き続き、正規・非常勤・パート職員も含めて教育・保育の記録(1日の振り返り)の取り方の研修</p> <p>★子ども園公定価格による収入・支出のバランスを考えながら、健全な子ども園運営を行う。</p> <p>責任者は職員に運営状況を丁寧に説明する</p>	<p>・HPは大変見やすく、タッキークラブ・入園希望者のほとんどの家庭が閲覧している。</p> <p>・一日の振り返りを記入することで、保護者に簡潔に一日の様子を知らせることに取り組んできた。</p> <p>・経営状況は順調であったが、気持を引き締めながら職員全員と取り組んできた。</p> <p>・職員の仕事の時間を有効に利用することを提案し、家庭には仕事をもち帰らないことを徹底させた。</p>
<p>⑨ 環境を守る取り組み</p>	<p>・教育・保育の中にも職員の行動にも環境問題を考えた対応をする</p> <p>・ものを大切にす。</p> <p>・動物・植物を大切にす。</p>	<p>★社会状況・経営状況を1人ひとり把握し、職員全員ができることから始める</p> <p>① 節電対策</p> <p>② ゴミの省力化 職員・3歳以上児に「自分のポケットにハンカチを」運動実施</p> <p>③ 園児たちに資源の大切さを知らせる 水の出し出っ放し・漏水等の確認</p>	<p>・天候の関係で夏野菜の生育が悪くお店屋さんごっこやグリーンカーテンの設置がうまくいかなかった。</p> <p>・</p>

<p>⑩ 新しい地域貢献活動の実践</p>	<p>保育に関係した地域貢献活動(例えば、こどもの貧困対策等)に参加する方策検討する。</p> <p>・地域内にある福祉ニーズを探り、法人として地域社会に貢献する。</p>	<p>★地域活動支援強化</p> <p>① 親子ひろばの支援メニュー充実に向けてプログラムを作成 ・親子ひろばのプログラム充実</p> <p>② 一時預かり事業の強化 母子家庭・父子家庭の預かり保育 養育者の精神障害による子育て不安の支援</p> <p>③ 待機児童を持つ保護者支援・・・タッキークラブ</p> <p>④ 地域防災訓練に参加・・・地域に参加</p> <p>⑤ 地域ボランティアの活用</p> <p>⑥ こども園行事への参加呼びかけ 流しソーメン・夏祭り・学童交流</p> <p>★地域のボランティア活動を保育の中に取り入れ、育成につとめる。 地域ボランティア、中高生の保育体験、実習生の育成と地域ボランティアの活用</p>	<p>・一時預かり保育事業では年間延べ1031名の対応となった。</p> <p>ただ 一時預かり保育・タッキークラブ・園見学の家庭において養育不安や子どもの発達に問題がある子もあり、現場で見えてくる課題に対して支援できる方法を考えていきたい。</p> <p>・福祉ニーズ・情報を掌握していなければ実施できないこともありどのように貢献するかは今後の課題である</p>
------------------------------	--	---	--

※平成28年度（平成28年4月～平成29年3月まで）の苦情はありませんでした。

※危機管理として、5月に骨折の事故があり、治療に1カ月以上かかったことから市と理事会に報告をさせていただいた後、重大な事故もありませんでした。